



令和7年度 地域研修（徳島県）の様子

令和8年度 「防災スペシャリスト養成」 地域研修（徳島県）

内閣府が実施する都道府県・市町村職員等向けの防災人材育成プログラム

災害対策本部の情報収集など、実践的な対応方法を学ぶ

本研修は、徳島県および県内市町村の防災関係職員を中心に実施する研修です。

今回は「線状降水帯」に伴う豪雨災害に主眼を置き、災害対策本部における初動対応から情報収集・分析、意思決定までに必要な知識や実践的な対応方法を学びます。平時の備えから災害時の災害対策本部運営までを取り組むことで、災害対応の一連の流れと、関係機関との連携の重要性を理解します。

約1ヶ月のオンデマンド講義期間中に講義動画を視聴し、約1日の対面演習を受講いただきます。研修カリキュラムは次ページ参照。

オンデマンド 講義

令和8年 6月9日（火）

～令和8年 7月8日（水）



※ 受講には、インターネットに接続されたPCやタブレットが必要です。
受講者ご自身でご準備ください。

対面 演習



令和8年 7月9日（木） 09:30～16:30

※時間は多少前後する可能性があります。

徳島県庁4階 災害対策本部室

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

申込期限 令和8年5月27日（水） ※ 申込方法は別添の募集要項をご覧ください。

受講者の声（R7年度アンケートから）

- 非常にボリュームのある内容でしたが、コンパクトかつ実践的に学べる講座を提供いただき、ありがとうございました。通常業務の合間に、今後も自己研鑽を継続していきたいです。
- 目の前の業務にばかり目が行きがちですが、災害経験がない我々職員に最も求められているものは、非常時における指揮監督力と対応力だと思います。今回のような過去に実際に起こった災害事例を通じて、知識・理解を深めていくことは非常に有意義であり、重要であると感じました。

- 現場の実情を知ることができ、よい経験になりました。
- 全般を通して、大変為になったと思います。自市においても、手付かずだった問題点が見えてきたので、行動に移したいと思っています。
- 災害対応について、自分がいかに知識（経験）不足であるか見直す機会になりました。
- 内容が濃く、防災担当1年目からしたら広い知識を得られる場になったと思います。
- 一昨年に豪雨災害を経験し、災害の怖さは知っていたつもりですが、事前に受援計画を作る必要性をしっかりと学びました。

地域研修とは

【参考】「防災スペシャリスト養成研修・地域研修」：<https://bousai-sp.go.jp/>

内閣府（防災）では、「危機事態に迅速・的確に対応できる人」、「国・地方のネットワークを形成できる人」を「防災スペシャリスト」に求める人材像と定め、国や地方公共団体等の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成研修」に取り組んでいます。

その一環である地域研修は、災害対応能力の一層の向上、地域内の人的ネットワークの形成の促進等を目的に、都道府県と内閣府（防災）の共催で開催します。

地域研修カリキュラム

注) 対面：当日の状況で変更の可能性あり
オンデマンド：今後の収録状況によって変更の可能性あり

オンデマンド講義・事前学習

必須/選択	地域研修における位置づけ	学習目標	
選択	近年の災害事例を学ぶ	・もともとも高頻度にかかる風水害を対象に、近年のどのような災害事例があったのかを説明できる。 ・自然災害事例の概要に関する記録を見る上での注意事項を説明できる。	
必須	風水害の発生メカニズムと被害の概要を学ぶ	・風水害のメカニズムを説明できる。 ・台風や大雨に関する気象情報の読み方を説明できる。 ・洪水災害、土砂災害、暴風・竜巻・高潮をもたらす現象の概要を説明できる。 ・洪水災害、土砂災害、暴風・竜巻・高潮による被害の概要を説明できる。	必須 260分 選択 100分 程度
	地域ごとの災害特性を理解する	・地域に災害をもたらす要素について説明できる。 ・地域の災害特性を知ることの重要性について説明できる。	
	防災の基本的体制の基礎知識を学ぶ	・防災に関する業務全体を俯瞰し、各業務の概要・位置付けを説明できる。 ・災害関連法の体系と災害対策基本法の概要を説明できる。 ・防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画等の概要を説明できる。	
	防災気象情報や避難情報を学ぶ	・災害情報に関する基礎的な概念を説明できる。 ・内閣府「避難情報ガイドライン」のこれまでの動向について説明できる。 ・避難行動の意味や分類を説明できる。 ・高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保の意味を説明できる。 ・警報等の防災気象情報を受けた災害対応過程と態度を学ぶ。 ・避難情報の発令に関する災害対応過程と態度を学ぶ。	
	災害救助法の概要を理解する	・災害救助法の概要を説明できる。 ・大規模災害時における広域消防応援体制を説明できる。 ・救助・捜索活動における連携の概要を説明できる。	
選択	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ	・警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。 ・警報等の伝達及び避難情報の判断・伝達の流れについて説明できる。	
必須	「当面の対応計画」の役割と基本的な構造、立案のプロセスを学ぶ	・災害対策本部の活動サイクルについて説明できる。 ・当面の対応計画の策定について説明できる。 ・当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理について説明できる。 ・災害対策本部会議の進め方について説明できる。	

対面演習・当日参加

形式	地域研修における位置づけ	学習目標	
あいさつ	はじめに	・本日の研修の意義を理解する ・本日の研修の実施体制を説明する ・本日の研修の流れを理解する	開始 9時30分 終了 16時30分
プレゼン	【講演】市町村における水害対応事例(仮)	・水害時の市町村における災害対応の重要性と実践課題を説明できる。	
	休憩		
プレゼン	【講演】県と市町村が連携した水害対応の備えと実践的な訓練事例(仮)	・水害時に求められる県と市町村の連携内容と、その実装に向けた訓練の重要性について説明できる。	
	昼休み		
班ワーク	【講義】災害対策本部の情報収集・分析の流れとポイント(仮)	・災害対策本部の情報収集・分析業務と意思決定の基本的な流れ、留意点について説明できる。	
	【演習】災害対策本部における情報整理・状況予測演習	・災害対策本部における情報収集、整理、状況予測の方法が理解できる。	
	休憩		
	【演習】災害対策本部における情報分析・対策立案演習	・収集した情報の分析方法、課題への対策の立て方が理解できる。	
	休憩		
コメント	【演習】ふりかえり	・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・日頃からの「備え」につなげることを認識する。	
あいさつ	おわりに	・本日参加の意義を伝える	

コーディネーター
【プロフィール】

兵庫県立大学
大学院減災復興政策研究科
紅谷 昇平氏

三和総合研究所(現・三菱UFJリサーチ&コンサルティング)、人と防災未来センター、神戸大学を経て、2016年より兵庫県立大学准教授。神戸大学博士(工学)。主な研究テーマは、国、自治体の危機管理・災害対応、産学民連携による地域防災活動など。自治体の災害対応に関して、多くの都道府県・市町村で研修講師を務めると共に、様々な委員等の実績がある。

共催



徳島県



内閣府(防災)